



古小だより

令和5年9月22日(金)

第7号

古平町立古平小学校

表現する～授業での発表や発言～

校長 丸岡 哲也

空を見上げると、さば雲、いわし雲、うろこ雲などの白と、澄み渡る空の青のコントラストが鮮やかです。強い日差しを受けると暑さを感じますが、空気自体は湿度が大分下がり、涼しくなってきました。テレビでは冬タイヤや除雪機、暖房器具のコマーシャルが流れ、スーパーマーケットの店頭には秋の味覚とともに、多種多様な鍋のつゆが並ぶようになってきました。朝晩の冷え込みから、ストーブ点火もそう遠くはないようです。

9月の全校朝会では、授業中の発言「**だってさあ**」についてお話ししました。各教室の授業を見て回っていると、2年生の国語の授業で、「**だってさあ**」の言葉に続けてその子の考えが述べられていました。担任の先生の「～じゃないの？」に食らいついて、「**だってさあ**」と更に自分の考えを述べていました。残念ながら、その場を離れなくてはならなかったため、その後の展開を観ることができませんでした。私が捉える極論として、子どもの「**だってさあ**」が出ることはいい授業であるということです。全校朝会では、「**だってさあ**」が言える子になってほしいと話しました。「**だってさあ**」の言葉が出る背景や要因はいろいろありますが、肯定的に捉えると、【言わずにはいられない】【自分の考えを持っている】【はっきりさせたい】【深めたい】【追究したい】などの表れであると捉えています。誰か相手がいないと出てこない言葉です。これは、学校で自分とまわりの子と学ぶよさです。

『教育研究』10月号は「表現することを楽しむ子ども」が特集で、その巻頭言で、筑波大学附属小学校の佐々木昭弘先生が「話型指導の是非」と題して次のように述べていました。

「私の考えは～～です。理由は、……」「～～さんの考えに付け足します。……」

話し方の型を先に教え、児童に表現させようとするのが、話型指導である。(話型指導の是非に触れて、中略)

「これも違うしあれも違う。だから残ったこれが正しいんだよ(消去法)」「これが間違っているとしたら、あれも間違いになるんじゃないか(背理法)」

相手を説得しようと必死になればなるほど、その表現方法は多様化していく。

何をどう話していいのかわからない子は少なくなく、話型を示すことで安心して発言することができます。しかし、その話型に固執するあまり、子どもの意見や考え方が硬直したり表面的に陥ったりしては元も子もありません。ある程度話型を知っていて、言いたいことや主張したいことが伝わるように、言葉を選んでいけるようにしたいと思います。話型指導以上に大切なのは、子どもたちが「表現したい」「話したい」が思うことであり、子どもたちがそう思う学習であるか、課題や問題であるかが鍵を握ります。授業をする者にとっては、そこが授業の生命線であり、授業づくりで労力をかける部分です。

2年生の「**だってさあ**」は、その子の自然発生的なものではないかと推察します。その言葉から学習への向かい方や意欲のすばらしさを感じました。さらに、「**ということは……**」という言葉も出てくることを期待しています。一人の発言に対して、【反応する】【比べて、判断する】【つなげる】【新たな考えを創り出す】【深める】ことができ、学級の中で理解と納得のある学習のまとめができたらいいいと思います。

子どもたちは、10月7日の学芸会に向け、日常の学習の成果を発表演目で表現しようと励んでいます。ご来校の上、温かいご声援を何とぞよろしくお願いいたします。

【教育目標】

『勇気ある子ども』(全体目標)

- 「自分で考える子」(知)
- 「思いやりのある子」(徳)
- 「たくましい子」(体)

◆ 今年度の重点

テーマ **思いをカタチに**
 育てる子どもの姿 **自信をもって伝える子**

◇ 10月生活目標 **おだやかな気持ちで過ごそう。**

避難訓練(火災)



9月13日(水)に、火災を想定した避難訓練を実施しました。

今回は、子どもたちに曜日や時刻の予告をせず、火災の放送を聞いて、自分たちの判断で避難を行う訓練です。

休み時間、体育館で遊ぶ子、教室で活動する子、それぞれで過ごしていましたが、緊急放送をしっかりと聞き、そばにいた先生方の指示を確認して外に避難をすることができました。

慌てず、静かに行動する様子を見ていた消防の方から、「今まで一番の避難訓練でした」との言葉をいただきました。

また、3年生以上は、「煙体験」を行い、火災時の安全な避難の仕方を教えていただきました。



芸術鑑賞

8月24日に芸術鑑賞会が行われました。

今年は函館を拠点に活動をしている音楽グループひのき屋の演奏を聴きました。

音楽鑑賞ではありましたが、曲の構成は子どもたちが楽しめるように考えられていました。



代表の子どもたちが、演奏者と一緒に太鼓を叩いたり、曲に合わせて早口言葉を言ったり、みんなで曲に合わせて体を動かしたり、タオルを回したりと、あっという間に時間が過ぎていきました。



音楽の学習とはちょっと違う、音楽の様々な楽しみを感じる時間になりました。

見学学習(2~4年生)

2~4年生は、9月15日(金)に見学学習を実施しました。

2年	【余市町】宇宙記念館、図書館
3年	【小樽市】かま栄工場、総合博物館、おたる水族館
4年	【余市町】旧余市福原漁場、余市水産博物館 【仁木町】フルーツパークにき 【小樽市】北後志広域クリーンセンター



教科書や資料を通して、たくさんの知識を学んでいます。

子どもたちは、その場実際に足を運び「本物」を見て触れることで、改めて学習した内容を体感することができました。

また、それぞれの施設の方の説明を聞いたり、質問したりする活動を通し、教室だけでは学べないコミュニケーション力を高めることができました。

今後も、実感の伴う学習になるよう体験活動を行っていきます。



第1回後志PTA研究大会・第4回子育て研修会

9月3日(日)に後志PTA研究大会・子育て研修会が、古平町で開催されました。

講師に

「なみうち助産院 院長 浪内 淳子氏」
「第5回WBC日本代表監督 栗山 英樹氏」
を迎え、子どもへの接し方、人を育てるために大切な事などについて楽しいお話しを交え、講演をしていただきました。

準備から当日のお手伝いをいただいた役員の皆様、講演に足を運んでくださいました皆様、ありがとうございました。

